

IV 草地の維持管理

草地の維持管理は、草地の状況を知ることが第一歩です。まず、牧草が生育している土壌から見てみましょう。

1 土壌

根室管内の土壌はほとんどが火山性土です。火山性土には未熟火山性土、黒色火山性土、厚層黒色火山性土など種類があり、それぞれ特徴が違います。例えば、粒子が粗いのか細かいのか、未熟火山性土は粒子が粗く排水性が良い反面、肥料も流亡しやすくなります。逆に、厚層黒色火山性土は粒子が細かく、排水性に多少難があっても肥料持ちが良いなど、管理をする上で留意すべき点を確認できます。



写真IV-1 必要に応じて土壌の状況を知る

2 施肥

次は施肥です。元々土壌中にある養分だけでは牧草の生育には不十分です。したがって化学肥料や有機物で養分を補う必要があります。前述した土壌の特徴や草種構成によって、施肥量が変わります。

特に注意したいことは、①作業機が草地に入れる状態になったらなるべく早く施肥を行うことと、②マメ科の割合によって窒素施肥量が変わること、です。この2点が収量と草種構成の維持に大きく影響します。

また、堆肥やスラリーなどの有機物の利用は、時期を逸した施用や過度な施用により牧草品質の悪化や環境汚染につながります。特に施用量は、有機物の成分によって変わります。成分分析を行い、過剰や不足にならないよう気をつけましょう。



写真IV-2 施肥は早めに



写真IV-3 有機物施用は適切に

3 雑草対策

さらに、雑草対策も考えておく必要があります。維持管理草地での雑草への対応策は、掃除刈りなどの機械的除草もありますが、多く見られるのがギシギシに対する除草剤散布です。農薬登録を遵守した上で、散布時期や除草剤の選択基準を今一度確認しましょう。



写真IV-4 ギシギシの繁茂した草地

4 その他

本章では、他にも土壌改良資材や冬枯れ対策など草地の維持管理について知っておくべき技術を取り上げています。

草地管理は結果が見えるまで時間がかかります。継続することにより力が発揮されるものですので、何年か経過した後に振り返り、自らの管理方法を検証しましょう。